

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 令和3年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 臨時会員総会が開催される

令和3年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会臨時会員総会が令和4年3月15日(火)に大宮ソニックシティ市民ホール401号室で開催された。本臨時会員総会の議案審議内容は、令和4年度事業計画案、収支予算案であった。

総会は長澤英一郎事務局次長の進行により始まり、最初に神山清志会長の挨拶が行なわれ、コロナ渦の中、参加された会員の皆様のご協力に感謝の意を表された。

議案審議に入る前に出席者から河村憲一氏(JCHO埼玉メディカルセンター)が議長に任命され、河村議長より総会役員が指名された。資格審査委員長に神嶋敏子理事、資格審査委員には東部地区から久保田亮氏(埼玉県立大学)、南部地区から急式政志氏(埼玉県立小児医療センター)、西部地区から神戸孝裕氏(関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所)、北部地区から阿部健一郎氏(深谷赤十字病院)が任命された。また、書記には千葉明日香氏(越谷市立病院)と久我春菜氏(さいたま市立病院)が、議事録署名人には、田中亜紀氏(熊谷総合病院)、久保居由紀子氏(JCHO埼玉メディカルセンター)が任命された。

審議前に河村議長は、「本日18時30分現在の出席者数は50名、委任状出席者数1,748名、議決権行使書数548名で、合計2,346名となる。この数は第一号から第二号議案を審議するための必要者数である3月1日現在の全会員数3,329名の過半数を超えており、定款第十八条の規定により本総会が成立する。」と宣言された。(議会の出席者確定人数は62名で合計2,358名)

議事審議は神嶋議事運営委員長より議事日程が提案され、それに沿い河村議長の進行により開始された。臨時会員総会の第一号議案である令和4年度事業計画案について神山会長から、第二号議案である令和4年度収支予算案は松岡優副会長から上程された。両議案とも質疑応答はなく、議決権行使書401名中、反対0名で、出席者拍手多数によって承認された。

これにて、総会役員、書記が解任となり臨時総会は閉会した。総会は、河村議長による円滑な議事進行と出席していただいた会員の皆様のご協力により滞りなく開催することができた。河村議長、総会役員ならびに会員の皆様に深謝する。



神山会長



議長 河村氏

追記 今回、総会に先立ち令和3年度公衆衛生事業功労者に対する日本公衆衛生協会会長表彰を受賞された結城篤氏（防衛医科大学校病院）の表彰が行われた。引き続き、昨年12月5日に開催された第48回埼玉県医学検査学会での優秀発表賞・学会長特別賞の表彰が久保田亮理事の進行で行なわれ、計9名の方が受賞された。受賞された皆様には謹んでお祝いを申し上げます。また、総会終了後、第50回埼玉県医学検査学会の神山清志学会長より学会の案内があり、今学会の開催形式は、大宮ソニックシティにおける現地開催との報告があった。また、第50回の節目に当たる学会であり、会員の皆様の学会参加や演題募集等の協力についてのお願いがあった。

### ○優秀発表賞

久我 春奈（さいたま市立病院 中央検査科）  
佐藤 由佳（彩の国東大宮メディカルセンター）  
渋谷 佳穂（埼玉県立小児医療センター）  
岩崎 篤史（自治医科大学附属さいたま医療センター）  
酒井 陽菜（埼玉県立がんセンター）  
米谷 美月（上尾中央総合病院）

### ○学会長特別賞

松本 紗季（戸田中央総合病院）  
藤村 和夫（済生会川口総合病院）  
島内佳菜子（TMGあさか医療センター）

### ○埼臨技奨励賞

小田 航（埼玉県立大学 健康開発学科）  
安田 里乃（埼玉県立大学 健康開発学科）  
遠藤 真果（埼玉医科大学 保健医療学部）

（文責：神嶋敏子）



優勝発表賞 受賞者



学会長特別賞 受賞者



埼臨技奨励賞 受賞者



**第50回 埼玉県医学検査学会  
学術部長 阿部 健一郎**

第50回埼玉県医学検査学会で学術部長をつとめさせていただきます、深谷赤十字病院の阿部 健一郎と申します。50回目という記念すべき学会の運営に携わることが出来、大変光栄な事と思う反面、初めての学会実行委員であるため神山学会長及び幼馴染の山口実行委員長の顔を潰せない？というプレッシャーと戦う日々を送っています。至らない点も多々あるかと思いますが、他の実行委員と共に心にも残るような学会になるよう尽力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。さて、昨年末からタスク・シフト実技研修会が開始されました。先人達の伝統を継承しつつ新たな分野も開拓していかなければならない岐路に立っている可能性がある中で、本学会のテーマ（伝統と革新 ～知・技・験の伝承～）に沿ったプログラム構成や抄録作成を検討しています。また、市民公開講座や特別講演などに関しては、少し変わった視点から行ってみたいと実行委員会内で調整しております。なお、抄録作成方法や演題募集等の注意点に関しましては、このあと廣瀬 良磨氏（浦和医師会メディカルセンター）よりございます。

**第50回 埼玉県医学検査学会演題募集について****第50回 埼玉県医学検査学会  
学術部 廣瀬 良磨**

令和4年5月1日より一般演題の募集を開始いたします。今月号では演題申し込み方法についてお知らせいたします。演題登録方法はこれまでと変わりませんので多数のご応募をお待ちしています。

**1. 演題申し込み資格**

- 1) 発表者は今年度の技師会費を納入した方（以下、会員）に限ります。
  - 2) 共同発表者は原則として7名以内とします。
  - 3) 非会員の共同発表者がいる場合は学会事務局にご連絡ください。
- ※なお、学生の発表については上記資格を問いません。

**2. 演題・抄録原稿の申し込み方法****1) 会員の方**

日本臨床衛生技師会総合情報システム（JAMTIS）を用いたWebでの演題・抄録登録をしてください。

※第50回埼玉県医学検査学会ホームページからJAMTISにリンクできます。

※ログイン時に会員番号とパスワードを使用します。

演題・抄録登録（変更）時にJAMTISより「受領メール」が自動送信されます。

受領メールが届かない場合はメールアドレス・登録手順をご確認ください。数日経過しても届かない場合は、お早めに学会事務局へお問い合わせください。

**2) 学生の方、賛助会員の方（コマーシャル演題）**

演題申込書、抄録原稿ファイルを第50回埼玉県医学検査学会ホームページからダウンロードし、学会事務局へ電子メールで送付してください。「受領メール」は演題・抄録受付後に学会事務局から数日後返信いたします。

**3. 抄録の作成要領****1) 会員の方**

JAMTISを用いた入力方式、ファイルアップダウンロード方式のいずれかで作成してください。

ファイルアップダウンロード方式で使用するMicrosoft Wordファイルは、学会ホームページからもダウンロードできます。

**2) 学生の方、賛助会員の方（コマーシャル演題）**

学会ホームページからダウンロードしたファイルにMicrosoft Wordを使用して抄録を作成



してください。

3) 一般演題・学生演題の本文は26文字×18行×2段=936文字以内です。

4) 句読点はカンマ「,」、句点はピリオド「.」を使用してください。

#### 4. 演題・抄録

受付開始日：令和4年5月1日(日)

演題・抄録締切日：令和4年7月15日(金)

※演題・抄録の締め切り日の延長は、原則として行いません。

#### 5. 発表方式

デジタルポスターまたは、スライド投影の口演（部門によって異なる予定）。

※コロナ感染状況によって、MP4による音声埋め込みも想定されますが、詳細は追って記載します。

#### 6. 申し込み演題の採否

1) 採否については実行委員会に一任願います。

2) 採否の結果については、後日電子メールにて通知いたします。

#### 7. 問い合わせ先

第50回 埼玉県医学検査学会 実行委員会事務局 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7

メールアドレス：e.sawa8827@gmail.com（事務局長；長澤）



### 抄録作成の作り方のアドバイスやポイント



第50回 埼玉県医学検査学会  
学術部 廣瀬 良磨

抄録を書くことに困ったら、過去の様々な抄録を見てみてください。過去の抄録には参考にすべき書き方や、表現がたくさんあります。その中で素晴らしい書き方や表現を見つけたら積極的に取り入れアレンジしてみてください。

参考になりそうな抄録を見つけた方は、抄録作成に取り掛かります。演題名は簡潔で発表内容がわかり易い題名を付けます。もしも、題名にインパクトを与えたい時は、自分だったら発表を聴いてみたいと思うような題名を考えると良いと思います。

演題名が決まったら文章作成です。文章の基本は起・承・転・結です。起承転結の起は（背景・目的）、承は（対象・方法）、転は（結果）、結は（考察・結語）の様に4つに分けて構成していきます。

①（背景・目的）は背景を踏まえ、自分が何を明らかにしたいのか短くまとめます。

②（対象・方法）は対象の基準や、実際に行った検討データ、データの抽出方法、評価方法について客観的に記載します。

③（結果）は対象・方法に則り、得られた事実や数値のみを記載します。

④（考察・結語）の考察は結果から導き出した飛躍のない自分の考えと残課題、今後の展望を記述し、結語で明らかになった知見を簡潔にまとめます。

自分なりに抄録を作成したら、先輩技師や上司などに何度かチェックしてもらいます。

誤字脱字は勿論のこと、アドバイスをしてくれたり、的確な表現などを教えてくれるはずです。

抄録は日本臨床衛生検査技師会総合情報システム（JAMTIS）を用いたテキスト入力方式、ファイルアップロード方式のいずれかにて作成します。ファイルアップロード方式で使用するMicrosoft Wordファイルは、学会ホームページからもダウンロードできます。文字数設定済みで、アップロードも簡単なのでお勧めです。

詳しくは[演題募集ページ](#)をご覧ください。それでは、多数の演題の申込みをお待ちしております。

## 令和3年度 第2回検査室管理運営研修会が開催される

テーマ タスク・シフト/シェア関連研修会

～ 活躍の場は検査室だけじゃない！ まだまだできる業務拡大 ～

実施日時：令和4年2月17日 19時00分～

会 場：Web開催

講 師：塚原 晃（医療法人社団東光会戸田中央総合病院）

井田 伸一（一般社団法人 群馬県臨床検査技師会 会長）

参加人数：会員127名

令和3年度 第2回目の本研修会がWebにて開催された。

講演1の塚原氏からは、肝炎医療コーディネーターとしての自施設での活動状況が報告された。肝臓専門医以外への医師へのフォロー、肝臓専門医へのフォロー、医療安全の観点からも肝炎医療コーディネーター（臨床検査技師）によるタスク・シフト/シェアは必要であるとの報告であった。

講演2の群臨技井田会長からは、全国初の臨床検査技師による新型コロナワクチン接種にいち早く対応されたその取り組みについて、講演が行われた。シミュレーターを用いた実技研修会（接種の一連の流れ）の様子が紹介されたが、研修会からわずか1週間後には県央ワクチン接種センターでのワクチン接種を開始され、その速さには驚愕した。ワクチン接種事業が問題なく実施された裏には、群臨技会員のチームワークに加えOB・OGの力添えも大きかったと。また、ワクチン接種後の感想は前向きな意見が多く、県が作成した運営マニュアルにより事前準備がしっかりできたこと、事務スタッフのバックアップによりワクチン接種に集中できたこと、感染対策・VVR対応など臨床検査技師にワクチン接種は適任であったとの意見が多く聞かれたとのことだった。今回のワクチン接種業務を終えて、県民の健康と命を守るという大きな貢献が出来たこと、臨床検査技師の認知度向上に大きく役立ったことなどを報告され、貴重なご講演であった。

現在、埼玉県でのタスク・シフト/シェアに関する厚労省指定講習会（実技講習会）は3回目が終了し、約180名が受講を終了している。第1回・第2回の本研修会を通して、各施設・技師会で行われている様々な事例について伺うことができた。今後の業務拡大を何から始めるのか、考えるうえでの参考にしていきたい。

（文責：松本千織）



## 令和3年度 女性技師企画研修会が開催される

令和4年2月27日（日）午前10時より、Web配信にて『‘お茶とヨガ’でリラクゼーション』～あなたはどちら派？～のテーマで令和3年度女性技師企画研修会が開催された。

昨年はコロナ禍で開催できなかったが、今回は通算5回目の研修会としてWeb方式に切り替え開催となった。当委員会では、女性会員が交流できる機会として7年前に“あじさいの会”を立ち上げ、2018年に埼臨技の一つの委員会に昇格となった経緯がある。様々な理由で平日は参加できないが休日なら研修会に参加したい会員に、子供と一緒に参加も可能にして交流できる機会を提供してきた。

今回の研修会は「癒やし」をテーマに、COVID-19関連の検査で激務にある臨床検査技師に、少しでも心と身体を解きほぐしてほしいと3部構成で企画した。

第1部は、当委員会前委員長の小島徳子氏（医療法人社団愛友会 蓮田一心会病院）が「これまでの活動報告“あじさいの会”から委員会立ち上げまで」と題して講演された。女性技師ならではの視点で「職場でのコミュニケーション」「食育」「女性の体調・婦人科疾患」「ハラスメント」を取り



出席した研究班班員：藤村和夫 小関紀之 室谷明子 柿沼智史 佐々木菜緒 渡邊裕樹  
小針奈穂美 中川禎己

#### 研修内容の概要・感想など

一般検査研究班主催の症例検討会がWeb環境にて開催された。

症例1は小針氏より急性骨髄性白血病の抗がん剤治療による腎性の急性腎障害を発症した症例についての講演であった。尿細管上皮細胞の尿沈渣像が提示され、尿細管上皮細胞の臨床的意義や急性尿細管壊死、抗がん剤など薬剤性腎障害についての解説があった。尿細管上皮細胞が多数出現していることかつ、大型で変性した尿細管上皮細胞の形態がみられた場合抗がん剤などの薬剤による腎症を考慮する必要があるとのことであった。

症例2は中川氏より脱水からの腎前性の急性腎障害を発症した症例についての講演であった。多数の尿細管上皮細胞、円柱のみられる尿沈渣像が提示され、それぞれの尿沈渣成分の説明、KDIGO診療ガイドラインによる急性腎障害診断基準を含めた検査値の解釈、補液による治療経過中の尿沈渣検査の解説があった。急性腎障害はFENa(ナトリウム排泄量)を測定すること、さらに臨床症状を参考にすることで腎前性または腎性の鑑別の参考になるとのことであった。

症例1・2は同じ急性腎障害の症例ではあるが、腎障害に至る原因が腎前性なのか腎性かによって尿沈渣中の尿細管上皮細胞の数や形態、背景が異なっているため、きちんと鑑別することで病態の把握につながる。また急性腎障害は命に関わる病態であり、原因の違いによって治療も異なるため、バイオマーカーやFENaなどによって鑑別し、病態の把握に努め、臨床に迅速に結果を報告することが重要であるとのことだった。急性腎障害の検査から診断までの流れを自身で考えながら学べるとも良い機会となった。

(文責：佐々木菜緒)

## テーマ 保健所・衛生研究所のしごと

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：令和4年2月14日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：基礎教科-20点

講師：菊池 孝司（さいたま市健康科学研究センター）

参加人数：会員87名

出席した研究班班員：菊池孝司 吉田翔平 鈴木由美子 立塚梓 富井貴之

#### 研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、菊池氏により保健所・衛生研究所の仕事と題して講演が行われた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、連日医療施設や保健所のひっ迫が報道されていることも一因となり、多くの会員の方が参加された。

保健所とは、地域保健法に基づいて都道府県、指定都市、中核市、特別区などに設置されており、地域住民の健康の保持増進に関する業務を行っている。都道府県型（食品・生活衛生・感染症対策・医事・薬事・精神保健・難病対策など）と指定都市型（都道府県型業務に加え、母子保健事業・特定健診・生活習慣病対策など）に分けられ、埼玉県内には都道府県型13施設、指定都市型4施設（さいたま市、川越市、越谷市、川口市）が設置されている。

衛生研究所とは、都道府県、指定都市などに設置され、公衆衛生の向上のために、各種の試験・検査や、公衆衛生情報などの収集・解析・提供のほか、調査研究、研修指導を行う機関である。

講演は、我々に馴染みのある微生物検査から大気調査や、騒音・振動調査など多岐に渡るものであり、興味深い内容であった。

(文責：富井貴之)

## テーマ 基礎から学ぼうTDM

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：令和4年2月17日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科-20点

講師：須長 宏行（積水メディカル株式会社）

参加人数：会員111名 賛助会員7名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太郎 大谷真澄 小林麻里子 石川純也 巖崎達矢  
廣瀬良磨 羽田幸加



## 研修内容の概要・感想など

今回は、須長氏より「基礎から学ぼうTDM」と題して講演が行われた。

TDMとはTherapeutic Drug Monitoringの略であり、薬物治療管理と訳される。個々の患者に適した投与設計を行い、適切な薬物療法を実現するためのモニタリングだが、必要とされる意義として①副作用の発現を最小限に抑える、②薬効を最大に引き出す、③迅速に患者個々の薬物療法の至適化を可能にする、④服薬状況の把握、が挙げられた。TDMを行うことで、患者のQOLの向上や費用対効果の上昇、医療コストの削減にも繋がるため、その注意点や解釈について説明があった。

副作用を最小限に抑えることや薬効を最大に引き出すことは、作用と副作用の血中薬物濃度と関係している。TDMを必要とする薬物は治療血中濃度範囲が狭いことや体内動態の個人差が大きいことなどがあり、作用の反応曲線と副作用の反応曲線を管理して投与を計画する必要がある。抗がん剤では作用と副作用の反応曲線は逆転していることもあり、副作用が許容できる範囲内での最大濃度として投与計画が立てられる。体内動態は吸収→分布→代謝→排泄の各過程を進むが、個人差があり、例えば代表的な代謝酵素であるUDP-グルクロン酸転移酵素は抗がん剤治療の際に活性が低いと死に至ることもあるため、事前に検査してから治療を開始することや、腎機能障害や高齢者の場合は腎臓排泄型薬剤で排泄がされにくく、血中濃度が低下しにくいため注意が必要との説明があった。

また、特定薬剤治療管理料に関しては、基本的に月1回470点の算定が可能であり、4ヶ月以降は免疫抑制剤と抗てんかん薬以外は235点になること、初回月は280点が加算されること、臓器移植の場合最初の3ヶ月は2,740点が算定できるなど、保険点数に関して説明があった。

その他、注意点や解釈としては、トラフやピークといった採血のタイミング、点滴をしている患者さんからの採血、シクロスポリンやタクロリムスのような全血での測定方法、慢性疾患・急性疾患での薬剤の解釈の違いなど、様々な例の解説が行われた。今回の講演では県内外から多数の参加と、採血管の分離剤の影響や試薬の原理、薬剤変更のタイミングなど多く質問があり、TDMは多くの技師に関心があるものだと感じた。TDMの各種ガイドラインも抗菌薬で2021年に改訂されており、新薬の開発も増えていくと思うので今後の動向に注目していきたい。

(文責：羽田幸加)

テーマ **Let's供覧!! あなたはどう読む? 総決算 —精度管理的視点を含めて—**

主催 細胞検査研究班

実施日時：令和4年2月22日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：基礎教科-20点

講師：野本 伊織 (埼玉県済生会川口総合病院)

猪山 和美 (自治医科大学附属埼玉医療センター)

参加人数：会員91名

出席した研究班班員：加藤智美 山崎泰樹 鶴岡慎悟 船津靖亮 松内萌 急式政志

稲山拓司 野本伊織 猪山和美

## 研修内容の概要・感想など

## &lt;概要&gt;

例年行われてきたLet's供覧の研修会は今回で11回目となり、総決算として過去10年間に出题された症例の中から正答率の低かったもの、希少例をピックアップし供覧した。問題は呼吸器・泌尿器・穿刺吸引検体・体腔液の計12問で、特に呼吸器、泌尿器は正答率の低かった問題を、穿刺吸引検体はリンパ節、体腔液は血液疾患をテーマに出題した。特に呼吸器(腺癌VS扁平上皮癌)と泌尿器(良性尿細管上皮VS悪性細胞)は日常的にも鑑別が難しく回答が割れる結果も見受けられたが、それぞれの細胞の見方や鑑別ポイントについて重点的に解説が行われた。事前に(クエスタント使用)行った回答率の報告も行われ、問題を作製する側の課題も含めた客観的な評価が行われた。提示するスライドでいかに所見を伝えるかが重要であり、今後の細胞診断の一助になると思われた。

## &lt;当日のスケジュール&gt;

18:00～ 開始、設問の供覧

18:10～ 前半6問(呼吸器・泌尿器)の解説

18:40～ 後半6問(リンパ節・体腔液)の解説

19:00 終了

(文責：猪山和美)

**令和3年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第12回 理事会議事録**

日時：令和4年3月10日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告      Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項      Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 濱本 長澤

山口 神嶋 松尾 伊藤 笹野

塚原 松寄 石井 神戸 阿部

長谷川 久保田

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 長岡 飯野 菊池

欠席：(理事) 矢作 小山

(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は20名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

**Ⅰ. 行動報告 (令和4年2月10日～令和4年3月9日)**

2月10日(木) 令和3年度第11回理事会：

神山、松岡、猪浦、濱本、長澤、

山口、神嶋、松尾、伊藤、笹野、

塚原、松寄、石井、神戸、阿部、

長岡、久保田、飯野、長谷川、

遠藤、細谷

2月13日(日) 臨地実習指導者講習会関甲信支部

講習会(第4回)：菊池、塚原

2月13日(日) 日臨技臨地実習指導者研修会挨拶：

神山

2月14日(月) 第2回検査室管理運営研修会事前

打合せ：矢作、笹野、塚原、松寄

2月15日(火) 日臨技認定協議会：神山

2月16日(水) 第50回埼玉県医学検査学会：

神嶋、飯野

2月16日(水) 日臨技国家試験解析：神山

2月17日(木) 検査室管理運営研修会：

伊藤、笹野、塚原、菊池

2月21日(月) 令和3年度第1回HP委員会：

矢作、濱本

2月27日(日) 女性技師企画研修委員会第1回研

修会：伊藤、神嶋、菊池、塚原

3月1日(火) 検査室管理運営研修会打ち合わせ：

矢作、伊藤、笹野、塚原、松寄、

菊池

3月7日(月) 検査室管理運営研修会打ち合わせ：

矢作、笹野、塚原、松寄、菊池

**Ⅱ. 報告事項**

**1 事務局**

1) 2月25日(金) 第71回日本医学検査学会に下

記5名の会員の座長推薦書を送付した。

病理 高橋俊介 氏

(株式会社ピーシーエルジャパン)

輸血 渡邊一儀 氏

(獨協医科大学埼玉医療センター)

チーム医療 笹野勝年 氏

(熊谷総合病院)

教育 飯野望 氏 (埼玉医科大学)

その他 矢作強志 氏

(川口市立医療センター)

2) タスクシフト指定講習会(埼玉県005)を

4月17日女子栄養大学で行うこととした。

4月～9月まで6回を女子栄養大学で行う

予定で進めている。

3) 3月8日役員推薦委員会が開催された。

(別紙資料18)

**2 総務部**

1) 2月21～28日の間、令和3年度第1回HP委

員会(メール会議)を開催した。

(別紙資料1)

2) 2月27日(日) 女性技師企画研修委員会第1

回研修会を開催した。

3) 3月15日(火) 埼臨技だより第514号発行予定。

**3 事業部**

1) 2月7日(月) 検査室管理運営研修会事前

打合せを開催した。(別紙資料2)

2) 2月13日(日) 臨地実習指導者講習会関甲信

支部講習会に理事2名を派遣した。

(別紙資料3)

3) 2月14日(月) 第2回検査室管理運営研修会

事前打合せを行った。(別紙資料4)

- 4) 2月17日(木)第2回検査室管理運営研修会を開催した。(別紙資料5)
- 5) 3月1日(火)第2回検査室管理運営研修会再講演に向けて事前打合せを実施した。(別紙資料6)
- 6) 3月7日(月)第2回検査室管理運営研修会再講演に向けて事前打合せを実施した。(別紙資料19)
- 4 学術部**
- 1) 1月24日から2月14日にかけて第3回編集委員会(メール会議)を開催した。(別紙資料7)
- 2) 3月15日埼臨技会誌Vol.68 No.3発行予定
- 3) 研究班運営マニュアルの改訂(会計・ホームページマニュアル以外)について三役承認された。
- 5 精度保証部**  
特になし
- 6 会計部**
- 1) 令和3年度正会員費2名10,000円、入会金1名1,000円、再入会金1名1,000円、合計12,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より生涯教育推進事業研修会助成金200,000円の入金があった。
- 3) 石井印刷へ、埼臨技だより第513号印刷代118,327円を支払った。
- 7 精度管理委員会**
- 1) 令和3年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査報告書を郵送した。
- 2) 令和3年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査報告会を3月24日Webにて開催予定。
- 8 一都八県会長会議**  
特になし
- 9 日臨技関甲信支部**  
特になし
- 10 日臨技**  
特になし
- 11 第49回埼玉県医学検査学会**
- 1) 学会決算について
- 12 第50回埼玉県医学検査学会**
- 1) 2月16日(水)第5回学会実行委員会を開催した。(別紙資料8)
- III. 承認事項**
- 1 事務局**
- 1) 会員動向(令和3年度分)  
令和4年3月1日現在
- 会員数 3,329名[令和2年度会員数3,214名]  
(新入会員 284名)
- 賛助会員 76社[令和2年度 78社]  
承認された。
- 2 総務部**
- 1) 部門別研究班ホームページ運用マニュアル改訂版について (別紙資料9)  
上記の件について、濱本隆明HP委員長より説明があり、審議の結果、承認された。
- 2) 令和4・5年度青年部委員会委員について (別紙資料20)  
上記の件について、濱本隆明HP委員長より説明があり、審議の結果、承認された。
- 3 事業部**  
特になし
- 4 学術部**
- 1) 研究班員公募について (別紙資料10)  
上記の件について、長岡勇吾部長より説明があり、審議の結果、承認された。
- 2) 令和4・5(2022・2023)年度血清研究班・臨床化学検査班員について (別紙資料11)  
上記の件について、長岡勇吾部長より説明があり、審議の結果、承認された。
- 3) 令和4・5(2022・2023)年編集委員会・編集委員会査読委員について (別紙資料12)  
上記の件について、長岡勇吾部長より説明があり、審議の結果、承認された。
- 4) 遺伝子・染色体検査研究班(仮)の委嘱について (別紙資料13)  
上記の件について、長岡勇吾部長より説明があり、審議の結果、承認された。なお、遺伝子・染色体検査研究班の設立について関係する諸規定を見直し、次回理事会で協議することとした。
- 5) 埼臨技会誌優秀論文賞について (別紙資料14)  
上記の件について、久保田亮理事より説明があり、審議の結果、承認された。
- 5 精度保証部**  
特になし
- 6 会計部**
- 1) 会計の手引きの更新について (別紙資料15)  
上記の件について、石井直美会計部長より説明があり、審議の結果、文書の一部を

修正とすることで、承認された。

2) 講師料等振込連絡票の様式について

(別紙資料16)

上記の件について、石井直美会計部長より説明があり、審議の結果、承認された。

7 精度管理委員会

特になし

8 第49回埼玉県医学検査学会

1) 第49回埼玉県医学検査学会決算について

(別紙資料17)

上記の件について、神嶋敏子学会担当理事より説明があり、審議の結果、承認された。

9 第50回埼玉県医学検査学会

1) 学会実行委員の退任と追加について

2) イベント管理システムの導入について

3) 学会PRチラシのだより同封について

4) 学会メーカー展示、ランチョンセミナー協賛代金について

5) 学会に関するという問い合わせ先に埼臨技事務所の住所・電話番号・FAX番号を使用したい。

上記1)から5)までの件について、神嶋敏子学会担当理事より説明があり、審議の結果、承認された。

IV. 議題

1 事務局

1) 令和4年度定時総会に上程する令和4・5年度役員について

上記の件について、濱本隆明事務局次長より説明があり、役員推薦委員会にて推挙された理事候補者について、令和4年度定時総会議案に上程することについて、審議の結果、可決された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

## あ と が き

もうすぐ桜の咲く季節です。(現在3月20日)日本人なら嫌いな人はあまりいないと思いますが、私も桜は大好きです。両親や友人・家族と秩父や熊谷・大宮公園などにお花見に出かけました。桜が咲いている間は、よく仕事の帰り道に遠回りをしてひとり夜桜見物を楽しみます。ある年は、開花時期に京都で研修があり、哲学の道や醍醐寺・平安神宮など見て回り、桜を堪能しました。(あくまで研修がメインですが、桜綺麗でした)

今年もいつもと変わらない桜の咲く季節になります。今年も、変わらず美しい桜を愛でることが出来ることに感謝したいです。桜が満開になる頃、皆さんのお手元にこのだよりが届く頃、世の中が少しでも良い方向に進んでいることを願うばかりです。

(松尾 記)

